



学校通信

平成29年度 臨時号
平成29年12月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

全国学力・学習状況調査について

今年度4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が8月25日に公表されました。本校の結果をお知らせします。

平成29年度 6年全国学力・学習状況調査 各教科平均正答率の比較(%)

	国語A：主として知識	国語B：主として活用	算数A：主として知識	算数B：主として活用
全国平均	74.8	57.5	78.6	45.9
東京都公立校平均	76	60	81	49
本校6年平均	<u>79</u>	<u>61</u>	<u>82</u>	<u>51</u>

国語全体では、都や全国の平均を上回りました。しかし、児童の解答を見ますと、『話す・聞く能力』においては「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」ことや「動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す」ことについて課題があることが分かりました。また、『書く能力』においては「手紙の構成を理解し、後付けを書く」ことや「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」ことについて課題があることが分かりました。本校の校内研究では、研究主題を「自分の考えを豊かに伝え、認め合う子供の育成～国語科における関わり合いを大切にした指導方法の工夫～」とし、国語科の学習を通して互いの考えを「伝え合う・認め合う」言語能力の向上を目指し、教職員一体となって研究を進めているところです。課題を踏まえ、日常の学校生活の中で、「言語に親しむ機会の設定」・「物事を関連付けながら書いたり、意見を述べ合ったりする指導の充実」・「日常的な言葉の学習と活用」など、表現力や語彙力を高める指導の充実をより一層図っていきます。

算数全体においても、都や全国の平均を上回っています。しかし、児童の解答を見ますと、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」問題の正答率が低いことから、数量についての技能に課題があることが分かりました。また、「二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する」問題の正答率が低いことから、記述で求める数量関係の数学的な考え方に課題があるということも分かりました。これらの課題を踏まえ、習熟度別算数少人数授業を充実させ、個に応じたきめ細かい指導を継続して行っていきます。数量についての技能を伸ばすために、ぐんぐんタイムや授業の中で演習に取り組む時間をさらに増やし、学習内容の基礎基本を定着させていきます。また、記述で求める数量関係の数学的な考え方を深めるために、計算式をたてたときに言葉や図を用いて説明したり、自分の考えを表現し伝え合ったりする学習活動を取り入れていきます。

児童質問紙からは、学習の楽しさや大切さを感じている児童が多く、学習習慣が概ね身に付いていることが分かりました。一方で「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」という質問項目では、都・全国平均を下回っていることが分かりました。日頃から自分の考えの理由を明確にさせたり話の組み立てを考えさせた上で発表させたりする学習を継続して進めていくようにします。

調査結果を基に、各教科における授業改善のためのプランを作成しました。また、学力向上を図るための全体計画をホームページに掲載していますのでご覧ください。それに基づいた授業を実施し、学校一体となって児童の学力向上に努めていきます。